

○課題文について

成重竜一郎『不登校に陥る子どもたち―「思春期のつまずき」から抜け出すためのプロセス―』（2021年 合同出版）から、一部を改変して用いた。

○設問1 傍線部アで、筆者は「ギャングエイジ」の仲間関係と述べていますが、それは、  
どういうことですか。課題文に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「ギャングエイジ」の定義とその前提条件を本文中の言葉から捉えて、精度の高い文章で記述したものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「仲間関係」の説明のみに終始したものや、本文中の文言を羅列するに留まり、文章構成力に欠ける解答が散見された。

○設問2 傍線部イで、筆者は自分にとってできることを選び、できないこと捨てることによって自身の可能性を選別し、将来を具体化させていくと述べていますが、これについて、  
あなたはどのように考えますか。課題文を踏まえながら、あなたの考えを、自分の体験や見聞を交えて六〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。「自分にとってできることを選び、できないこと捨てること」の具体や、「自身の可能性を選別する」ということについて触れていて、それにふさわしい体験や見聞を事例としながら、論理的な文章構成で述べたものを高く評価した。

【講評】

自分の体験や見聞を根拠としながら「自身の可能性を選別する」ことについて述べた解答が多く見られたが、出題ポイントである「将来を具体化させていく」ということにまで踏み込んで、具体的に述べられた文章は少なかった。